

令和6年度

横浜市立東高等学校

【学校評価報告書】

および

【学校評価アンケート集計】

令和6年度		東高等学校評価報告書	
取組分野		取組目標	自己評価
重点取組項目	「総合的な探究の時間」の取組の推進	○「総合的な探究の時間(イーストタイム)」で身に付けた資質・能力を教科等で活用し、生徒の探究心の育成を教科横断的な視点で実践します。 ○教育活動全体でESDの視点を意識し、外部機関等との連携を含めた取組を計画、実践します。また、市立小学校・中学校等との成果の共有や新しい時代に合った国際理解教育の充実を図ります。	○「総合的な探究の時間(イーストタイム)」で身に付けた資質・能力を、様々な教科でプレゼンテーション・ディスカッション活動において活用できている。より多くの場面(姉妹校との交流の場など)で生徒の探究心の育成を実施することが課題である。 ○よこはま動物園や企業と連携し、外部機関のESD推進の取組みを学ぶことができた。「総合的な探究の時間(イーストタイム)」で実施した課題探究の成果を、小・中学校等と共有することができた。国際理解教育の充実については、国際交流行事を活用し授業内でより身近な異文化理解を重視した取組みを実施した。
	多様化する生徒への支援	○人権尊重の精神を基盤とし、自他ともに尊重する心や多様性を認め、様々な課題を自分ごととして捉え、ともに解決していく生徒を育ていく教育をあらゆる場面で実施します。また、諸課題に対して組織的に対応できる生徒支援体制の充実を図り、より「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校づくりを推進します。	○「十分に、または概ね実現できている」と75%が評価をしており、昨年度と比較すると評価が下がってしまった。全体集会や年次集会、LHRなどで自他ともに尊敬する心を育てられるよう指導が必要だと感じる。また今年度「自己理解と自己表現」について考えるをテーマとして職員研修を行ったが、来年度以降も継続して研修を行い、職員全体でより良い学校づくりを行うことが課題である。
	魅力ある高校教育の推進	○「主体的・対話的で深い学び」を実践し、教科横断的に学びをつなげる授業の充実を図ります。また、ICTを効果的に活用した授業等を研究し、実施します。 ○生徒自身が進路を主体的に選択し、生徒の可能性を最大限に引き出すような指導を心がけ希望する進路を実現したい。生徒一人ひとりに寄り添った相談や支援の充実を図ります。 ○特別活動や部活動等、さまざまな活動をおとして、コミュニケーション力、責任感、自己肯定感、社会参画の意識、多様性の尊重等の育成を図り、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を育成します。	○クロームブックを最大限に活用し、生徒が主体的に参加する授業が展開がされていた。特にロイノートを活用したり、今年度からスタートしたメタバースを利用することで、授業の幅が広がった。 ○本年度も多様な場面で多くの生徒が個々の能力を発揮し、経験を積むことで、持続可能な社会の実現に貢献できる能力を身に付けている。
人材育成の取組目標		○高い人権意識と生徒理解に基づき、生徒、保護者に寄り添った支援のできる人材の育成を図ります。 ○生徒の興味・関心を喚起し、ICTを活用した授業等を実践する授業力を持った人材の育成を図ります。 ○学校運営に参画するリーダーシップや相互支援できるチーム力を発揮する人材育成を図ります。 ○主幹教諭、ミドルリーダーの積極的な学校運営の参画やメンターチームの充実等を図り、教職員の学び合う環境づくり、意欲的に働ける環境の整備を推進します。 ○計画的な校務遂行やICTの積極的な活用等により、業務の効率化、削減、縮減に取り組み、ライフ・ワーク・バランスの適正化を図り、学び続ける人材の育成を図ります。	○教職員の人権研修会を行い、人権に対する知識を深めるとともに人権意識をの向上に努めた。 ○ロイノートの活用方法を研修等で学ぶ機会を設け、授業で有効活用できている。 ○メンター研修を定期的に行ってきた。初任者だけでなく、幅広いキャリアの教職員が参加し、非常に質の高い学びの場となった。 ○ミドルリーダーを中心に学校改革の研修を行い、先進校への視察を行った。 ○ICT機器の利用では授業だけでなくアンケートや連絡手段など生徒にかかわる内容だけでなくデータ処理など業務全般にクロームブックを使用している。また、丁合機を導入し、作業の効率化が図られた。
中期学校経営方針における13の取組分野	教育目標等の設定・実施	○本校の学校教育目標、中期学校経営方針、スクール・ミッション及びスクール・ポリシーについて理解を深め、目標の達成に向けて会議等のあらゆる場面で意見交換の活性化を図ります。	○スクールミッションやスクールポリシーの教職員への周知では年度当初に校長からの学校運営についての説明の中で行われた。また、校内に掲示するなど生徒たちへの紹介もされている。 ○HPを利用して、情報公開に努めた。
	組織運営(働き方改革)教職員研修	○主幹教諭及び各分掌主任の学校運営に対するリーダーシップを高めるとともにミドルリーダーの積極的な学校運営への参画を図る。 ○教職員が意欲と責任を持って校務を遂行、支援できるチーム力を高める。 ○「働き方」の視点をもち、効率的に校務を行う意識の向上を図ります。	○組織運営では、クラス担任の負担軽減のために担任団の人数を増やし、担任団から選出する委員の数を減らした。 ○行事・働き方改革推進委員会では、様々な視点から働き方を検証する機会となり、一定程度の成果が得られている。 ○超過勤務の法的研修を実施することで、働き方考えるきっかけを得ることができた。
	教育課程	○カリキュラムポリシーを理解し、ESを軸とした教育課程構築のため、全ての教員が目標を共有して意見交換を活かしながらカリキュラムマネジメントを進めます。 ○「主体的・対話的で深い学び」の共通理解と実践例の研修と授業における実践を進めます。 ○「論理的思考力」と「高いコミュニケーション」の育成に関する実践例の研修と授業における実践を進めます。	○「十分に、または概ね実現できている」と教職員の50%に満たない状態である。全ての教員が目標を共有して意見交換を活かしながらカリキュラムマネジメントを進めることが必要である。 ○「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、生徒の資質、能力の向上を図る傾向に教員が注視していくことが必要である。 ○「論理的思考力」と「高いコミュニケーション」の育成における実践例を構築していくことが課題である。
	教科指導	○生徒のニーズに応える質の高い授業、ICTを積極的に活用する等、ICT支援員と連携をしながら効果的・効率的な授業を研究、実践します。 ○全ての教科・科目においてICTを用いて「主体的・対話的で深い学び」を実践し、観点別評価により、生徒の振り返りと教員の授業改善を実施します。	○「十分に実現できている、または概ね実現できている」が約50%となっていることもあり、全ての教員が実践できるようにすることが課題である。ICT機器を活用し、効果的・効率的な授業を実践できるようにする。 ○ICT機器を活用した「主体的・対話的で深い学び」を実践し、観点別評価による授業改善を前向きに取り組んでいけるような取組が必要である。
	特別活動部活動	○バランスよく配置した特別活動・部活動等をおとして、責任感、自己肯定感、社会参画や世界に向けた意識を高め、多様性を尊重した豊かな人間関係を構築する力を育成し、学校生活の充実を図ります。(特別活動・部活動) ○部活動を通して社会性を基本的な社会性と協調性を育み、個の能力を引き出す環境を整え進めていきます。(部活動)	○「バランスよく配置した…学校生活の充実を図っている」の質問に対して、教職員は約64%、保護者は約76%「実現できている」と回答している。今後も、生徒が主体的・自主的に人間関係を構築していけるように支援していくことが必要である。 ○部活動をしている生徒が多く部活動をおして人間関係を構築し、学校生活を豊かにできたとしている生徒は75%以上となっているが、さらに顧問や家庭、生徒が共通の意識を持って活動していくために課題がある。そのため部活動の意義ややりがいなど生徒だけでなく保護者や顧問が共有しながら行っていく必要がある。
	生徒指導教育相談(特別支援)	○教育理念を踏まえ、社会との関わりをおとして生徒に自己肯定感を醸成し、集団や社会の一員としてよりよい生活を送るよう態度を育成します。 ○特別支援校内委員会を定期的に開催し、生徒の実態把握と支援について、組織的に解決に向けて取り組む体制の強化とスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用した関係機関との連携を推進します。 ○道級の体制を整え、生徒・保護者の抱える課題について寄り添い支援します。	○日頃からSC・SSWとの情報共有を行い、対応すべき際には瞬時に連携し保護者支援に向けて動くことが出来た。 ○道級指導の校内内規を作成し、ケース会議で授業担当者全員で意思疎通を図り支援策を出し合えたことにより、巡回指導の成果が得られた。 ○多様なニーズに対応した学習確保についても全職員で前向きな取り組み必要がある。(特別支援)
	キャリア教育進路指導	○模試の回数増や面談の時期を見直し、生徒の意向に沿った進路指導の充実を図っていく。進路ガイダンスや進路相談の内容を厳選しより効果的な進路指導を実施していきます。 ○新課程入試への対応策を検討し、しなやかに移行期間に対応していきたい。生徒に対する効果的な指導に向けて、進路希望等の情報共有をはかり定期的な職員研修会を実施します。	○推薦者に対しての指導手順に課題がある。来年度、推薦説明会の複数回実施や時期の検討の必要がある。 ○保護者からのアンケートより担任を含めた進路指導に関する評価が課題であると感じる。学年進路からの情報発信の回数や集会での情報発信は以前よりも高い。コロナ禍において大学に出向くことや予備校に出向いての勉強会に参加する職員が著しく少なくなっている。進路指導に対する意識改革をしていく必要がある。
	保健指導環境美化	○生徒の心身の健康についての意識を高めるとともに、発生した課題については、迅速かつ丁寧な対応を行います。感染症予防について継続的に指導を進めます。 ○校内の学習環境の美化に努めるとともに、ゴミの減量と分別に向け主体的に考え行動できるような指導を行います。	○健康診断の事後措置や個別の保健指導を適切に行い、健康意識の向上に努めた。また、日々生徒の課題に向き合い、関係職員と情報共有し、多角的な生徒対応につなげた。感染症対策は、社会状況に基づき継続した指導が必要である。 ○教室にゴミ箱を置かず「ゴミの持ち帰り」を推進した結果、ゴミを減らすという意識は少しずつ高まっていると感じる。ユネスコスクールとして文化祭でのゴミの多さ(コンテナ2台必要)を考えるべきではないかと感じている。
	学校経理施設・設備情報の管理	○公金・準公金の適正な執行に対する意識を高め、計画的な執行を行います。 ○施設・設備の老朽箇所等の修繕等を進めます。 ○個人情報取扱いの重要性を確認し、情報の管理を徹底します。	○公金と教員が関わる準公金など適正な処理をのため研修を行うことはもちろん、丁寧な会計処理を行ってきた。 ○法定定期点検(12条点検)をはじめ消防点検など施設の定期的な点検を行い常に施設設備等の修繕を行い校内の安全に努めている。 ○個人情報の取り扱いについてはは席による研修を行った。
	保護者・地域等との連携協力	○学校運営協議会、PTAとの連携により開かれた学校づくりを推進します。 ○ESD推進にあたり、外部機関等との積極的な連携を検討します。 ○近隣の保育園や小中学校との交流事業を推進します。	○学校運営協議会およびPTAとの連携により開かれた学校づくりは、概ね実現できているとの評価を得ている。特にPTA活動が積極的に行われ、連携もうまくいっている。今後は、開かれた学校を家庭だけでなく地域へアピールしていくことが課題である。
危機管理	○生徒の安全・安心を第一に、学校の危機管理に全教職員で取り組みます。 ○生徒の防災・減災等、危機管理に対する意識を高める指導を充実させます。	○土砂災害警戒情報発令時の生徒への対応及び連絡について見直し。 ○地震発生時の避難場所を教室とし、生徒には安否確認を知らせるアプリの登録をし、動作確認をしている。 ○次年度以降は、生徒及び教職員が一緒になって訓練に参加し、生徒の安全を第一に考えた連絡方法のあり方を検証できる訓練を計画する。	
学校に関する情報公開	○学校情報の正確・迅速な発信に努めます。 ○ホームページやInstagram等を適切かつ有効に活用した情報公開に努めます。 ○新しい時代に合った生徒募集を実施し、アドミッション・ポリシーの浸透を図ります。	○「ずーぐる」を有効活用し、情報の発信が円滑に行われるようになった。 ○本校ではCMSではなく独自のホームページを作成することにより他との差別化を図っている。また、Instagramも活用し、多くのニーズに答えられるよう努めた。	
いじめへの対応	○いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、日常的な情報共有、一人ひとりの生徒理解に努め、「いじめ防止基本方針」に則りいじめの未然防止と早期発見に努め、いじめの解決に向けて組織的に取り組む。	○校内のいじめ認知の意識改革ができ、学校全体で同じ方向を向けて取り組めるようになった。 ○ヒアリングシートを統一し、データ保管に変更したことで、どの職員でもスムーズにヒアリングができ、また該当生徒への継続指導がしやすく、職員間で共有しやすくなった。 ○「いじめ防止基本方針」の見直しを行った。SNSの使用や、肖像権についての指導には力を入れる必要がある。	
学校関係者評価書提言		・Instagramの投稿など、情報発信が積極的に東高校や子どもの様子を知ることができ、中学生や地域の方々にも東高校の雰囲気や伝わるようになっていく。広報活動として今後も続けてほしい。生徒評価はどの項目も満足度が高く、充実した学校に感じる。 ・総合的な探究の時間は、教職員評価は低い、生徒の評価は高い。社会生活を送るために必要な資質・能力をもっと生徒に身につけさせたいと、教職員の目標値が高いと感じられる。 ・働き方改革では、労働基準法・部活動ガイドラインの研修を職員向けに行い、フレックスや振替の取組から超過勤務時間は減少している。教職員評価については今後の期待の表れでもある。 ・「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校づくりにこれほど多くの教職員が力を入れていることが大変印象的である。	
学校関係者評価書提言に対する考え		・情報化社会の利点をいかし、これらも学校の魅力ある取組についてInstagramやホームページを活用して情報発信に努めていきたい。 ・総合的な探究の時間については、学校内外の人的資源を活用しながら、SDGsをはじめ社会の様々な取組について生徒が触れる機会を設け、生徒の課題探究の意識を高めていきたい。 ・教職員の働き方改革については、教職員の部活動ガイドラインの遵守と共に生徒や保護者へも理解をいただけるよう説明の場の設定を進めていきたい。	

令和6年度学校評価【地域】

1. 学校は地域の人材や施設を教育活動に活かしている。
2. 学校は文化祭等の学校行事を通して、地域から信頼される学校を目指している。
3. 学校生活が楽しそうで、生き生きとしている様子の生徒が多くみられる。
4. 生徒は登下校の際のマナーが身についている。
5. 生徒は近隣に迷惑にならないような行動を心がけている。
6. 学校は地域の活動や行事によく協力している。
7. 学校は校舎・グラウンド等の近隣に接している所も清掃し、環境美化に努めている。
8. 生徒は社会貢献（地域清掃や地域のボランティア等の取組）の活動により地域に貢献している。
9. 学校は地域に向けて学校情報の提供をしている。

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9
十分に実現できている	1	2	2	1	1	1	1	1	1
おおむね実現できている	5	4	4	4	4	5	3	4	4
あまり実現できていない	0	0	0	0	0	0	0	0	1
全く実現できていない	0	0	0	0	0	0	0	0	0
判断できない	0	0	0	1	1	0	2	1	0
6666666666									
% % % % % % % % % %									
そう思う・ややそう思う	100	100	100	83	83	100	67	83	83
あまりそう思わない・そう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0	17
判断できない	0	0	0	17	17	0	33	17	0

